

駅と街がつづる“かすかべ”の歴史

2024/4/1～

埼玉県鉄道高架建設事務所と春日部市郷土資料館は
鉄道高架事業と駅周辺の歴史を学ぶことができる
展示ブースを開設しました

春日部駅周辺の歴史的な写真

鉄道高架事業の紹介パネルや関連する各種模型を展示し

過去から未来へつながる“かすかべ”の駅と街の魅力を伝えます

1 えど江戸時代のにっこうどうちゅう日光道中 かすかべじゆく粕壁宿

現代の春日部駅東口方面は、約400年前、江戸時代に入ってにっこうどうちゅう日光道中のしゆくばまち宿場町として整備され、市街地形成の出発点となりました。

S1 江戸時代の粕壁宿 ペーパークラフト模型 手作り 1/150

平成28年(2016)に製作した、手作りのかすかべじゆく粕壁宿模型。子どもたちがお店や蔵のペーパークラフトを組み立てた。ペーパークラフトは職員の協力で製図。現在のかすかべ大通り沿いに商店や旅館、蔵などが立ち並んでいた、粕壁宿の町並みを表現。

1-1 江戸時代 日光道中粕壁宿の歴史

(解説パネル)

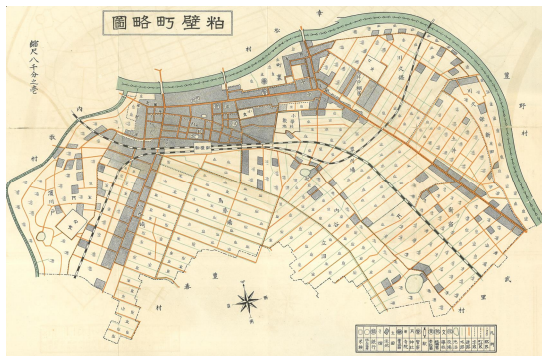
1-2 江戸時代 ひろしげ二代広重 にっこうどうちゅう日光道中五 かすかべじゆく粕壁宿 (埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵)

粕壁宿を描いた唯一のにしきえ錦絵。

1-3 江戸時代 文化3年(1806)完成 ごかいどうぶんけんのべえず五街道分間延絵図 かすかべじゆく粕壁宿

(Image:TNM Image Archives 東京国立博物館所蔵)

えどぼくふ江戸幕府が調査して作成した絵図。町並みを想像できるため、模型作成の参考とした資料。



2 近代の粕壁の町並み

めいじ明治時代以降は粕壁町役場や粕壁小学校など多くの公共の施設が設置され、地域の中心として発展しました。

2-1 昭和10年(1935)ごろ 粕壁町略図

「小学校敷地」とあるのが現在地(教育センター・粕壁小学校)。



2-2 明治～大正～昭和～平成～令和 駅と街の歩み (解説パネル)

2-3-1 明治末～大正 粕壁町田村商店

蔵造りの店舗は、現在も使用されている。

2-3-2 明治44年(1911) 山田半六商店川岸倉庫 (古利根川の河岸)

現在の新町橋のたもと。石積みがありちょっとした船着き場となっていた。

2-4-1 大正10年(1921) 粕壁町 八坂神社祭礼 新宿組

八坂神社は、江戸時代には天王社(牛頭天王社)といわれ、宿場の江戸寄りの入り口に立つ市神様。祭礼は現代の春日部夏祭りの起源。

2-4-2 大正10年(1921) 粕壁町 八坂神社祭礼 新町

新町は、橋を渡った八丁目村の一部。

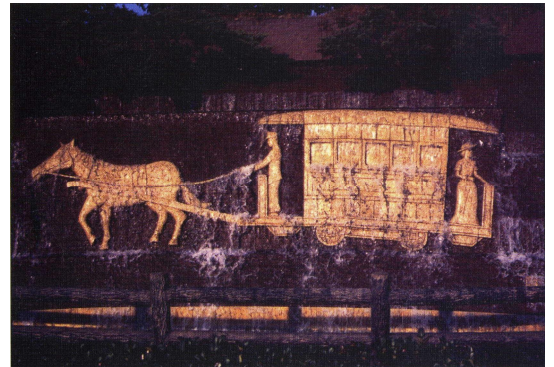
2-5 昭和9年(1934)ごろ 粕壁町商売繁栄双六

現代も営業している商店がある。



3 駅と鉄道の歴史 その1 明治・大正・昭和前期(1893～1945)

明治26年(1893)北千住と粕壁を結ぶ千住馬車鉄道が開業します。馬車鉄道はわずか4年で粕壁-大沢(現越谷市)間では姿を消しますが、明治32年(1899)東武鉄道が開業し、粕壁の街は粕壁駅を核として発展していきます。



3-1 春日部市域の駅の変遷

3-2-1 千住馬車鉄道の路線

終点は、最勝院の脇であった。当時の道路は未舗装であったため、レール(軌条)を敷設することで安定した速度で運行することが可能となることから、馬車鉄道は東京をはじめ日本各地に設けられた。

3-2-2 千住馬車鉄道の軌条と車両を使用した角田馬車鉄道(現宮城県柴田町・角田市)

(角田市郷土資料館提供) 千住馬車鉄道廃業後、レールと車両が譲渡された。

3-3 千住馬車鉄道のレリーフ(古利根公園橋)

3-4 明治35年(1902) 牛島の藤花園の人力車(『埼玉県営業便覧』)

牛島のフジは観光名所として東武鉄道開業後宣伝された。昭和3年(1928)に国の天然記念物に指定。

3-5 昭和10年(1935)ごろ 粕壁駅

東京方面から日光方面へ撮影。右側に旧東口駅舎と蒸気機関車が写る。



3-6-1 ^{とねがわ きせん}利根川の汽船 絵葉書 ^{ちようし}銚子風景 利根川 ^{さんばし}栈橋
現千葉県銚子市

利根川・江戸川を利用した航路は、明治時代には旅客と貨物の輸送の主力であった。

3-6-2 大正 9~15 年(1920~1926) ころ ^{きせん こうろ あんない}汽船航路案内

3-7-1 昭和 13 年(1938) ^{そうぶてつどう}総武鉄道の車両

総武鉄道は現在の東武鉄道野田線（アーバンパークライン）の前身。昭和 19 年(1944)に合併した。

3-7-2 昭和初期 ^{そうぶてんしゃえんせんあんない}総武電車沿線案内

名所として「牛島のフジ」と「^{はちまんぐう}八幡宮」（春日部八幡神社・位置はズレている）が描かれている。

4 駅と鉄道の歴史 その2 ^{しやうわ}昭和中~^{へいせい れいわ}後期・平成・令和(1946~2023)

駅と街の歴史が大きく変容したのは、昭和 40 年代半ば以降のことです。高度経済成長期に春日部市は住宅都市として人口が急増します。春日部駅の西口方面が開かれ、昭和 46 年（1971）には春日部駅西口が開設され、新たな春日部市の顔となりました。

4-1 昭和 20 年代 春日部駅現西口方面のイラスト

昭和 20 年に粕壁町^{そかい}へ疎開し 10 年ほど暮らした高木さんが、当時の様子を思い出して描いたイラスト。

4-2 春日部市域の鉄道、道路、旧河岸の図

^{かし}河岸は水運で使われた船着き場のこと。

4-3-1 昭和 25 年(1950) 1 月 春日部駅発電車時刻表

「粕壁町」は昭和 19 年(1944)に隣村であった内牧村^{うちまきむら}と合併し、「春日部町」となった。駅名表記は少し遅れて、昭和 24 年(1949)に「粕壁」から「春日部」に変更された。

4-3-2 昭和 29 年(1954) ころ 春日部駅

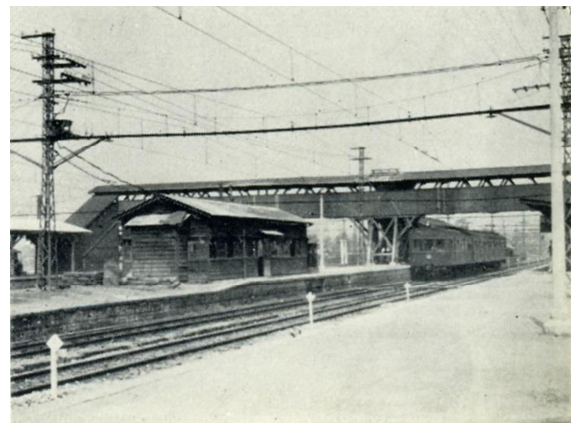
4-4-1 昭和 30 年(1955) ころ 春日部駅構内の電車

4-4-2 昭和 30 年(1955) ころ 春日部駅へ入線する貨物列車

4-5 昭和 37 年(1962) ころ 春日部駅東口

4-6-1 昭和 40 年(1965) 建設中の武里団地^{たけさとだんち}

武里団地は昭和 39 年(1964)から造成が始まり、昭和 41 年から入居が始まったマンモス団地。以後春日部市域は飛躍的に人口が増加していく。東武鉄道せんげん台駅（越谷市）は昭和 42 年の開業。





4-6-2 昭和 41 年 (1966) 建設中の北春日部駅
北春日部駅は東武鉄道に乗り入れている地下鉄日比谷線の延伸に伴い、昭和 41 年 (1966) に開設された。

4-7-1 昭和 45 年 (1970) 春日部駅東口

4-7-2 昭和 45 年 (1970) 建設中の春日部駅西口
春日部駅西口方面の開発が進み、昭和 46 年に駅西口が開設された。

4-8 昭和 45 年 (1970) ごろ ^{うちやふみきり}内谷踏切 ^{うちやりつきょう}現在は内谷陸橋に切り替え。

4-9-1 昭和 48 年 (1973) 春日部駅東口方面空撮写真

4-9-2 昭和 48 年 (1973) 春日部駅東口

旧春日部駅東口駅舎の奥に見える看板は、昭和 47 年 (1972) 開業の総合スーパー。当初は現在地より駅寄り^{てんぼ}に店舗があった。



4-10-1 昭和 45 年 (1970) ごろ 春日部駅西口空撮写真



4-10-2 昭和 45 年 (1970) ごろ 旧春日部市役所 (中央 6-2) から見た春日部駅西口方面

旧春日部市役所は、昭和 46 年 (1971) 開庁し、令和 5 年 (2023) まで使われた。



4-9-1 昭和 48 年 (1973) 春日部駅東口方面空撮写真



4-10-1 昭和 45 年 (1970) ころ 春日部駅西口空撮写真

4-11 昭和 45～46 年(1970～1971) ころ
春日部駅西口ロータリー

4-12-1 昭和 54 年(1979) 春日部駅西口

4-12-2 昭和 55 年(1980) 春日部駅西口



S2 お菓子で作った^{ふるとねこうえんばし}古利根公園橋の模型 1/60 寄贈者 (株) ポンテザール
昭和 59 年(1984) 11 月 ^{らくせいまねん}落成記念 古利根公園橋 材料 砂糖ほか

公園と橋が一体となったユニークな古利根公園橋は、昭和 59 年(1984)に開通。平成時代には春日部駅東口と道路が直結し、国道 16 号と駅を直接結ぶ重要な道路となる。



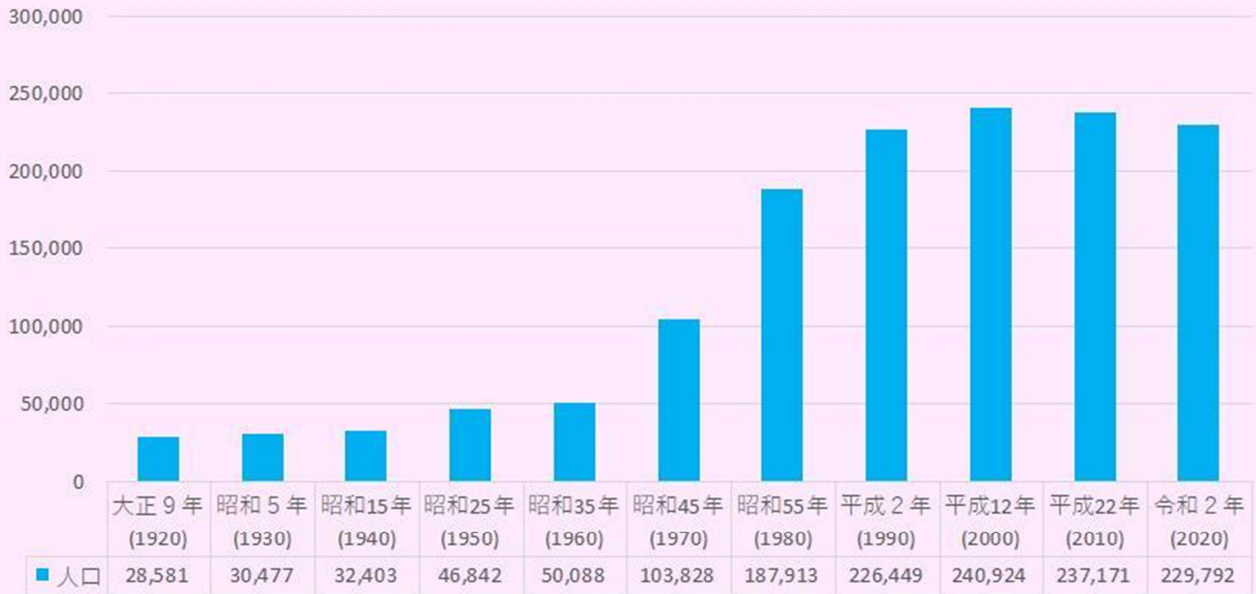
4-13 平成 3 年(1991) 春日部駅西口方面空撮

4-14-1 令和 5 年(2023) 2 月 3 日 春日部駅東口駅舎 (前)

鉄道高架建設工事の進捗に伴い、順次駅の姿が変貌を続けている。

4-14-2 令和 5 年(2023) 2 月 4 日 春日部駅東口に開設された仮駅舎

春日部市域の人口の推移 単位：人 人口は国勢調査による



5 粕壁小学校木造校舎と教育センター

教育センターの建物が建っている場所は、昭和 63 年(1988)3 月まで粕壁小学校の木造校舎でした。大正 12 年(1923)の関東大震災^{かんとうだいしんさい}で粕壁小学校の校舎が被災したため、現粕壁東 1 丁目にあった小学校の敷地から現在地へ移転し、新校舎として建築されました。展示しているコンクリート製の校章^{こうしょう}は、この校舎に掲げられていた実物です。



5-1-1 春日部市立粕壁小学校木造校舎模型

1 / 100

5-1-2 正面に掲げられていた校章 (粕壁町章)^{ちようしょう}

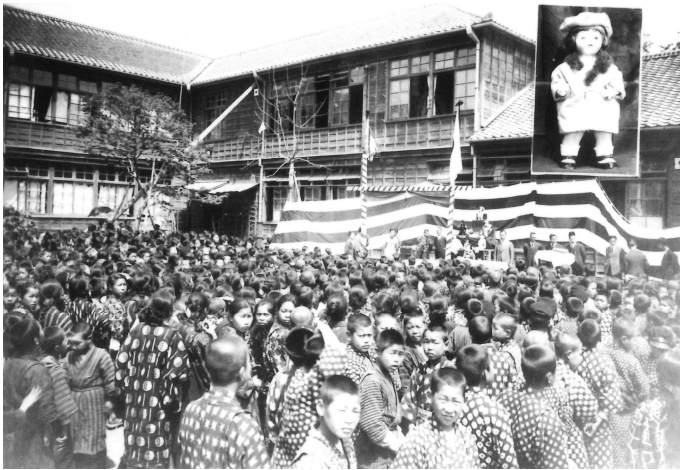
5-2-1 大正 4 年(1915) 体操服

5-2-2 昭和初期 女子体操服

5-3-1 大正 15 年(1926) 運動会 (玉入れ)

5-3-2 大正 15 年(1926) 運動会 (綱引き)





5-4-1 昭和2年(1927)4月20日 ^{べいこくきぞう} 米国寄贈
にんぎょうかんげいかい
人形歓迎会

「青い目の人形」として知られている人形。
 粕壁小学校には現物は伝わっていない。

5-4-2 昭和4年(1929)2月23日 学芸会

5-5-1 昭和14年(1939)粕壁小学校の木造校舎

**5-5-2 昭和63年(1988)解体前の粕壁小学校木
 造校舎**

5-6 春日部市教育センター模型 1/300

平成2年(1990)、視聴覚センター、教育相談センター、郷土資料館、教育委員会事務局が入る複合施設として開所。



4-2 春日部市域の鉄道、道路、旧河岸の図 ^{かし}